様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　6 月　5 日現在

機関番号：24302
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：20330120

研究課題名（和文）　ソーシャルワーク教育における研修方法とプログラムの開発に関する研究

研究課題名（英文）　A Study of Training Skills and Programming in Social Work Exercise

研究代表者
中村　佐織（NAKAMURA　SAORI）
京都府立大学・公共政策学部・教授
研究者番号：80198209

研究成果の概要（和文）：
本研究の目的は､質の高い専門職養成のために新たな研修プログラムとその方法を提案することにある。そのための研究方法は、文献研究、研修を受けた人たちからのアンケート調査やヒヤリング調査で行った。結果は、①ソーシャルワーク教育の問題、②新たな研修方法の 4 つ要素の整理、③独自の教材の提案、④試行と評価のフィードバックとデータ蓄積の必要性、が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this study is to propose a new method and its training program for high-quality professional training. For research methods that were conducted in surveys and hearing from people who received professional training. Result, ①the issue of Social Work Education, ②organize four elements of new training method, ③proposal of unique materials, ④the need for feedback and data accumulation of trial and evaluation, were revealed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011 年度	2,000,000	600,000	2,600,000
年度			
総　計	6,900,000	2,070,000	8,970,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学
キーワード：社会福祉関係、ソーシャルワーク、社会福祉援助技術、社会福祉演習教育

１．研究開始当初の背景

「社会福祉士及び介護福祉士法」の成立から 24 年が経過し、専門職の増加とともに社会福祉の専門性の意義と重要性は、一般にも認知されるようになってきた。また平成 19 年の大幅な改正により、実習教育の強化と質の高い専門職養成のための演習の充実が求められるようになってきた。特に社会福祉士教育の演習教育は､4 単位→8 単位に増加し、認定された演習指導教員による教育の実施が義務づけられるというように厳しい枠組みのなかで教育の変革が行われることになったのである。それに追随するように現場のソーシャルワーク教育でも演習教育の質が叫ばれるようになってきた。

しかしその一方で、社会福祉士の養成教育の方法やプログラム内容の検討も、研修方法やその展開システムづくりも始まったばかり

である。そのため、これまでのソーシャルワーク教育（養成教育や現任のソーシャルワーカーの研修など）は、教員個人の裁量に任されていたのが現状であった。ゆえにあらゆる研修・演習教育の現場では、プログラムや展開方法と教育システムの基盤が求められている。

２．研究の目的

そこで、本研究の目的は、このような社会的背景とソーシャルワーク教育の現状からの要請に応えるために、ソーシャルワークの質の向上（質の高い専門職養成）を目指した新たな教育方法の構築を進めることにある。そのため、まずはわが国のソーシャルワーク教育で一般的である研修に着目し、そこから新たなソーシャルワーク教育研究をすることにした。なぜなら、研修がわが国で非常に活発に実施され、そこに研究する多様なプログラムがあるからである。具体的には、その研修方法とプログラム開発の現状をふまえ、新たな提案を考えていくうえで、次の４点について明らかにすることを目的とした。

（１）先行研究による研修・演習の状況理解
　① わが国および諸外国の状況と問題
　② 概念・方法・プログラム展開の整理
（２）調査による研修・演習の状況理解
　① 統計にみる理解（受講生への調査）
　② 事例や研修内容にみる理解
（３）演習と研修の特徴からの教材開発
　① 事例などのプログラム・教材づくり
　② ワークシートや具体的なプログラム展開の検討
（４）ソーシャルワーク教育における研修システムの定式化
　① 新たなソーシャルワーク教育概念や研修システムの要素の整理
　② （１）から（３）をふまえた研修・演習システムモデルの作成と試行

３．研究の方法

本研究の目的を遂行するために平成 20 年度は、わが国の近年のソーシャルワークに関する研修・演習プログラムや文献の整理と教育学や心理学等の隣接領域に関する先駆的な演習教育の調査を行うことにした。また並行して、研究代表者自身の演習内容の分析や研究分担者との演習内容の比較検討を継続して行った。

平成 21 年度は、平成 20 年度からの基礎研究の継続やソーシャルワーク教育における研修の困難さを明確にするためのアンケート調査（全国社会福祉協議会中央福祉学院の社会福祉主事研修）を実施することにした。また基礎研究で整理してきた新たな演習教育の枠組みを用いて、研究代表者及び研究分担者が自身の学生教育演習場面や現任教育場面で演習を試行した。

平成 22 年度から最終年度には、これまでの成果のフィードバックを継続的な学会報告、学生の演習場面、各フィールドでの現任ソーシャルワーカーの研修・演習場面（シュミレーション演習とし）で実施し検証することにした。特に新たな演習の教育効果等についてのアンケート調査やヒヤリング調査、さらには分担者とのディスカッションを通じて、一連の演習方法やその展開とプログラム開発に関するまとめを行った。

４．研究成果

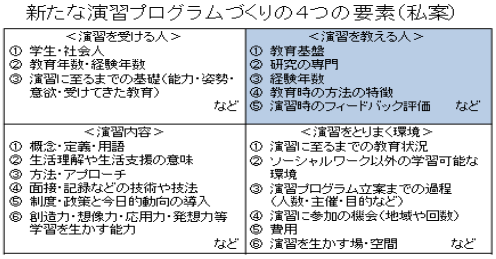
本研究課題で得られた成果については、次の点が上げられる。

（１）　先行研究による研修・演習の状況

諸外国及びわが国の文献等による先行研究を渉猟して、①わが国における研修・演習は個人の担当者の裁量によってなされている状況であり、そのため学生・研修受講生の質の担保ができない問題や、研修・演習担当教員の少なさと専門性の問題が明らかになった。

また、②理論的整理のなかで、新たな演習プログラムの作成・展開という一連の過程には、受ける人（学ぶ人）、教える人、演習内容、演習を取りまく環境の４つの要素を視野に入れる必要性を明らかにした。

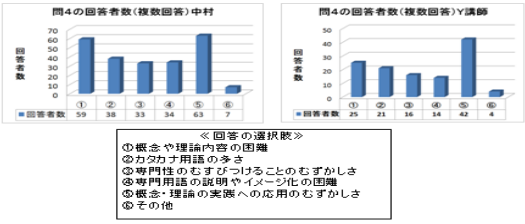
表１　新たな演習プログラム展開の４要素



（２）　調査による研修・演習の状況理解

まず①統計にみる理解では、全国社会福祉協議会中央福祉学院の受講生 253 名に以下のアンケート調査を行った。

アンケート調査の概要
３．ソーシャルワークの難しさに関する質問
①回答者の総数（複数回答）



≪回答の選択肢≫
①概念や理論内容の困難
②カタカナ用語の多さ
③専門性のむずかしさつけることのむずかしさ
④専門用語の説明やイメージ化の困難
⑤概念・理論の実践への応用のむずかしさ
⑥その他

この調査は、研究代表者と分担者の２名で実施した。結果、ソーシャルワーク特有の用語の難しさや理論と実践をつなぐ能力の問題を明らかにした。また②事例や研修内容にみる理解では、特に毎年、研究分担者も含めてそれぞれが行っている研修での受講生の理解の問題とともに、研究代表者が行った演習担当教員の講習会での教える人の側の問題（能力・意欲・姿勢など）も明らかになった。

（３）演習と研修の特徴からの教材開発

このことについては、大学の演習や実践者の研修のなかで、エクササイズやソーシャルワーク・トレーニング、事例を用いた演習展開、視聴覚教材を用いた演習などで、ワークシートや独自のツールを開発しているところである。すでに実際の研修で試行しているところである。この点に関しては、他の隣接領域のやり方も視野に入れて作成することにした点が特徴である。

（４）ソーシャルワーク教育における研修システムの定式化

この点については、更なるプログラムやワークシートなどの作成と結びついたシミュレーション演習の積み上げと研究分担者や受講生からのフィードバックで、精緻化していく作業によって構築可能になると考えている。例えば、最終年に実施したのは、社会福祉士に関する演習を受講した学生にプログラム評価と新たな提案をしてもらうことによって、より効果的な研修方法とプログラム内容を精査する手法をとったことである。

またこの４年間で、継続的な学会報告を行った。そしてその集大成として、平成 25 年１月には、研究分担者も含めた出版（『教える人と学ぶ人のためのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房）の予定である。

このように本研究は、ソーシャルワーク教育における演習は、プログラム展開をするために不可欠な４要素を視野に行う基礎を明確にした点にある。マニュアル化ができない演習においては、教える人のこうした基礎への意識化は必要不可欠であろう。この点に関しては、国内外における本研究の位置づけが画期的であると考えられる。

なお、今後は、すでに述べたように依頼の研修でのチャレンジと試行の積み上げ、自身の企画でのワークショップや演習開催（特に、十分研修を受けられる環境にない離島や過疎地域のソーシャルワーカーへの試み）、出版や論文執筆によって、システム構築に向けた継続研究を進めていきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 山口真里「ソーシャルワークにおけるストレングス教育の意義　―『相談援助』系科目担当教員へのヒアリング調査をつうじて―」『広島国際大学医療福祉学科紀要』第８号　査読無　2011 年　pp. 79-91
② 中村佐織「ソーシャルワークにおける演習教育の課題」『ソーシャルワーク研究』Vol.36 No.2　相川書房　査読無　2010 年 pp.4-14
③ 西梅幸治「エンパワメント実践における perspective 特性の検討―エコシステムと社会構成主義に焦点化して―」『高知女子大学紀要』60　査読無　2010 年 pp. 65-82
④ 齋藤順子「スーパービジョンから学ぶ対人援助」自費出版　査読無　2009 年

〔学会発表〕（計６件）

① 中村佐織「相談援助実習後における相談援助演習の展開と課題」北海道ブロック社会福祉士養成教育研修会（招待講演）北星学園大学　2012 年 2 月 26 日
② 山口真里「ソーシャルワークにおけるストレングス教育の現状と課題　―『相談援助』系科目担当教員へのヒアリング調査をつうじて―」日本社会福祉学会第 58 回秋季大会　日本福祉大学　2010 年 10 月 10 日
③ 中村佐織「ソーシャルワーク教育における新しい方法に関する研究（４）　―演習プログラムとその展開―」日本ソーシャルワーク学会第 27 回大会　明治学院大学　2010 年 7 月 4 日
④ 中村佐織「ソーシャルワーク教育における新しい方法に関する研究（１）」日本ソーシャルワーク学会第 26 回大会　聖隷クリストファー大学　2009 年 7 月 5 日
⑤ 加藤由衣・中村佐織「ソーシャルワークにおける現任教育の特徴（１）―富山県３団体合同研修でのアンケート調査の分析から―」日本社会福祉学会第 56 回大会　岡山県立大学　2008 年 10 月 12 日
⑥ 山口真里「ストレングス - パワー変容過程における局面展開Ⅰ―エンパワメント事例からの分析―」日本社会福祉学会第 56 回大会　岡山県立大学　2008 年 10 月 12 日

〔図書〕（計６件）

① 齋藤順子「第２章　相談援助の価値前提と原則」坂野憲司編『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』弘文堂　2012 年 pp.11-26
② 中村佐織「第４章　8. ストレングスモデルに関する相談援助演習」白澤政和他編

『社会福祉士　相談援助演習』中央法規出版　2009 年 pp.146-149
③ 中村佐織「第４章　14. エンパワメントアプローチに関する相談援助演習」白澤政和他編『社会福祉士　相談援助演習』中央法規出版　2009 年 pp.174-177
④ 中村佐織「第７章　第２節　演習事例②」日本社会福祉士養成校協会編『相談援助演習　教員テキスト』中央法規出版 2009 年　pp. 203-213
⑤ 中村佐織「終章　ソーシャルワーク実践研究の経緯と展望」太田義弘編『ソーシャルワーク実践と支援科学―理論・方法・支援ツール・生活支援過程―』相川書房　2009 年 pp. 227–242
⑥ 山口真里「第５章　科学性・専門性としての実践過程」太田義弘編『ソーシャルワーク実践と支援科学―理論・方法・支援ツール・生活支援過程―』相川書房 2009 年 pp. 61-73

６．研究組織

(1)研究代表者

中村　佐織（NAKAMURA SAORI）
京都府立大学・公共政策学部・教授
研究者番号：80198209

(2)研究分担者

齋藤　順子（SAITO JUNKO）
淑徳大学・総合福祉学部・教授
研究者番号：30288443

西梅　幸治（NISHIUME KOUJI）
高知県立大学・社会福祉学部・講師
研究者番号：00433392

山口　真里（YAMAGUCHI MARI）
広島国際大学・医療福祉学部・講師
研究者番号：70441566

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：